

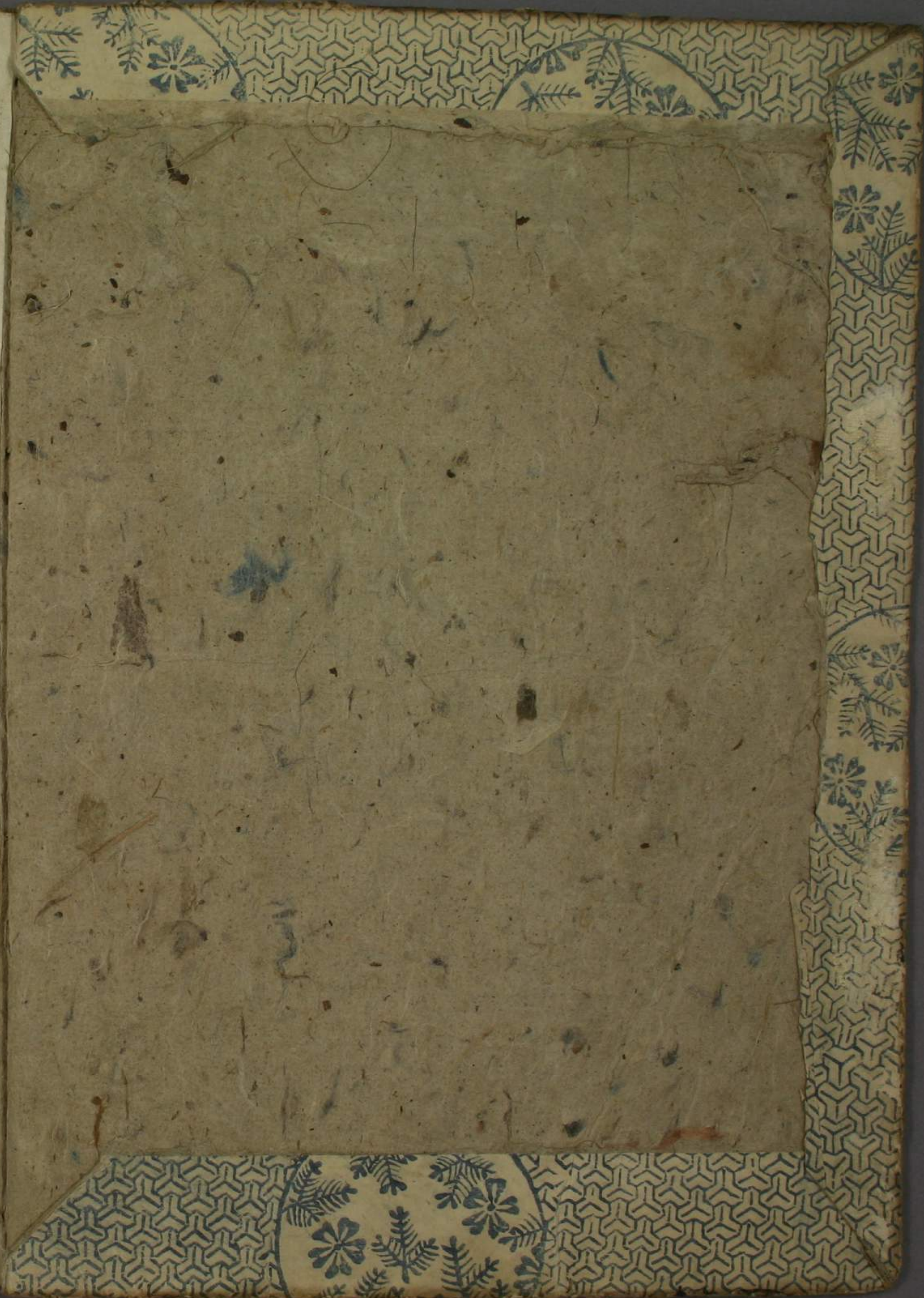


ル 3
3368
2



2086

同治丁丑
夏月
書



門 凡 3
3368
卷 2

和朝名勝畫圖卷之二目錄



水乃白

廣津池

次廣園

箱根山

詩圖

夾野

詩圖

明海溪

詩圖



新津池

詩圖

伊勢海

詩圖

細水川

三保浦

竹田里

老曾松

早稲田 大學 圖書館
27.3.5 雙
藏 書

浦
の
春
の
日

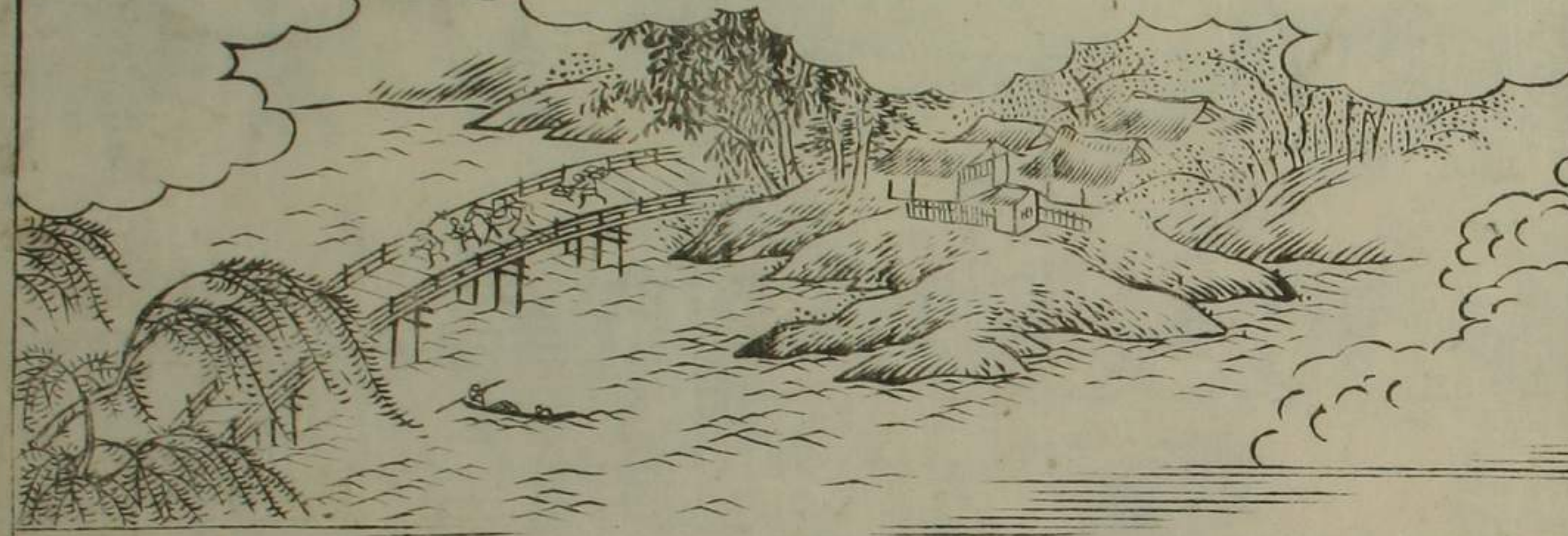


水
の
白
の
舟
の
後
太上天皇



朝

原の 津 け け



西津野 新 師 白

あ け け け け け



十
月
の
廣
澤
池



廣澤池
の
景
を
見
て
思
ふ
は
し
く
も
あ
ら
ま
い
り
し
る
也
信
定
の
作



山行 杜牧

遠上寒山石徑斜
 白雲生處有人家
 停車坐愛楓林晚
 霜葉紅於二月花



夕陽下映
 楓葉の春二月
 の花より紅
 なること
 すゆいひ
 のくしゆ





雲
鳥



次
廣
実
按
体
保
志
昌

次
千
鳥
の
か
い
入

次
り
く
夜
糸
さ
き
ん
ね

次
の
り
く
夜

花屋月新



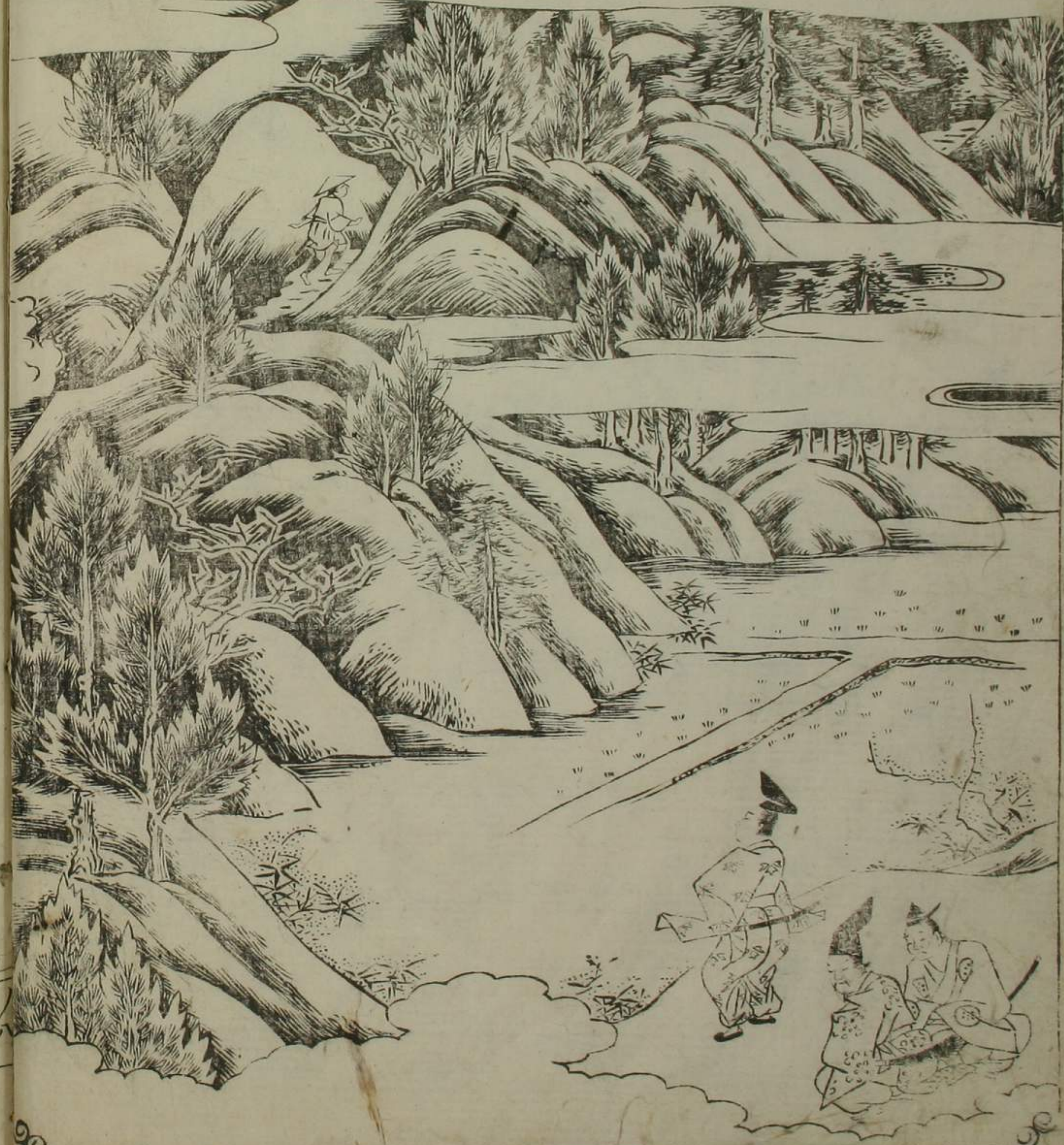
伊勢海
徳会石大
後杯
伊勢の
萩
あま
し
ま



波の
 小の
 仲の
 海
 波
 り
 り
 り



箱根
 山相
 忍倉右大臣
 海
 と
 城
 城
 城



華逕暗水

横川

每行華徑月朦

朧何處水声

來暗中一想可

春流漲香雪

近聽作雨遠

聞風

乃忘花の暗く逕と月
の朦朧たる付に花を
暗く水声の遠に水声
察とるよれは流る流れ
来つとをそくそく水の
とく遠くすは風のす
やうと香をわが切のそ
石のふと風とむと
こゝろり合をてつ
とる流るや



春睡

李太白

鳥喚華驚只麼

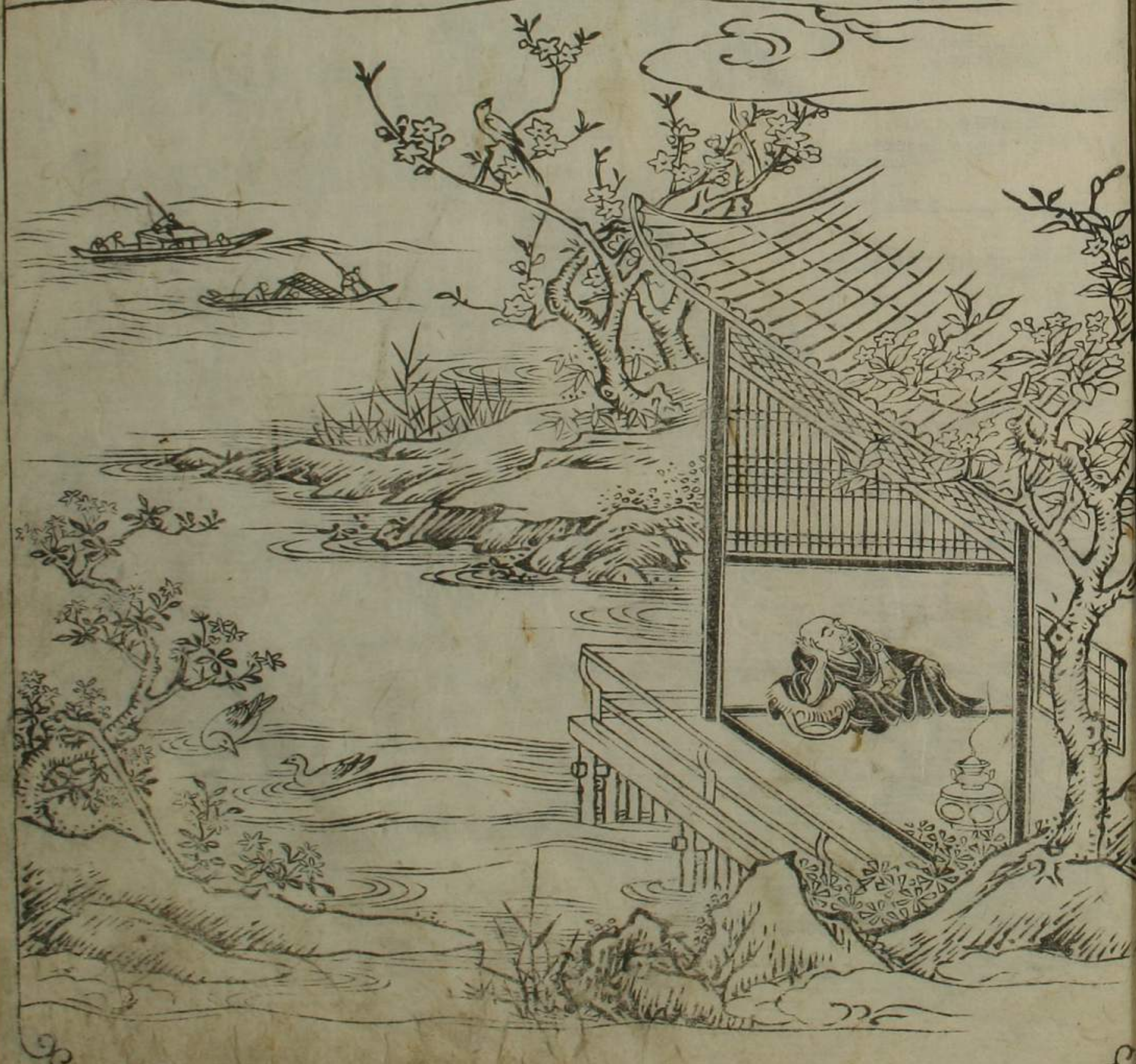
眠懶於春者老枯

禪東風載我晴

窓夢吹落江湖

白鳥前

乃忘春の暗く睡
つとるも鳴る花を驚
ることも只睡つとる
てして睡るを春の方
物さゆめが我が春
も老るるうけ傍がりの
うとつやのるれの後
申やと表れつる意の
は睡るうまて東風が
のてして江湖の白鳥を
乃眠る静るる不
かやうと



月 秋の 院の 色 あり



高 波の 城す 子 川 初 和 大 光 信 白



ね け ら
ん



交野
基
の
角
鳴
交
の
子
花
の
夜
の
福
れ





三保浦 遠河

後名泊

海見泊

富江

煙

消

月影

見

三保

浦

畫軸 江南

江上秋風吹葉

殘吟詩襟宇似

僧寒飛樓隔

岸定佳寺欲

渡無舟立馬

看

江上秋風吹葉
殘吟詩襟宇似
僧寒飛樓隔
岸定佳寺欲
渡無舟立馬
看
江上秋風吹葉
殘吟詩襟宇似
僧寒飛樓隔
岸定佳寺欲
渡無舟立馬
看



信のど岸

と漏て

櫻閣とびへ

長あつらやうに

とゆるらうに

て寺ししを

ちん寺中

の佳景とえ

き 舟のりし

つゝあつた

いりともれ

を岸頭よ

馬とまて

やうやうし

ち中の景

色とやひ

やふと

まり



竹園
糸の丸
の
休



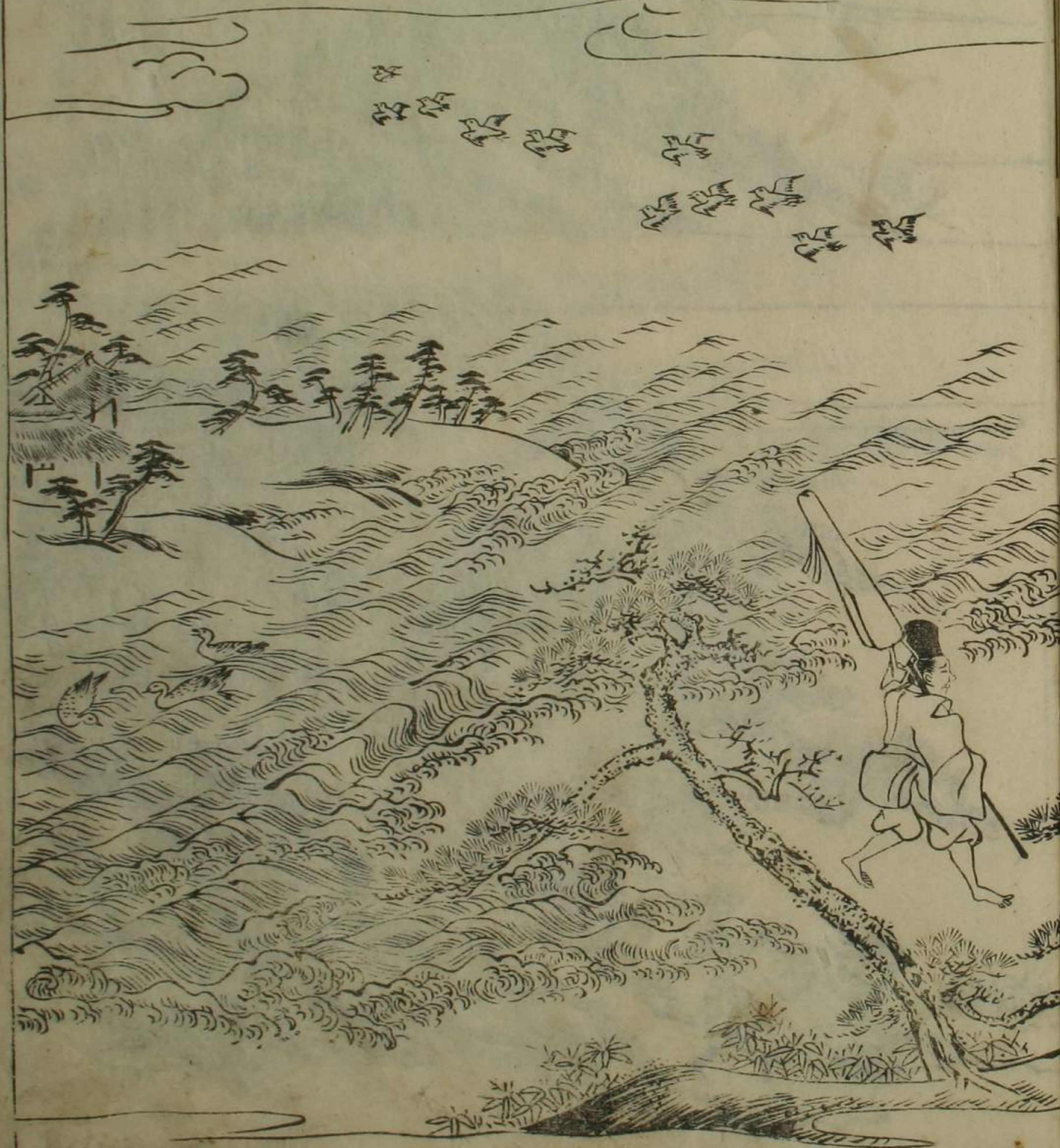
我
の
心
な
れ
は

竹園
山
城
佐々木
宗
利
画



月泉
塩
い

松
竹
梅
鶴
亀
雲
龍



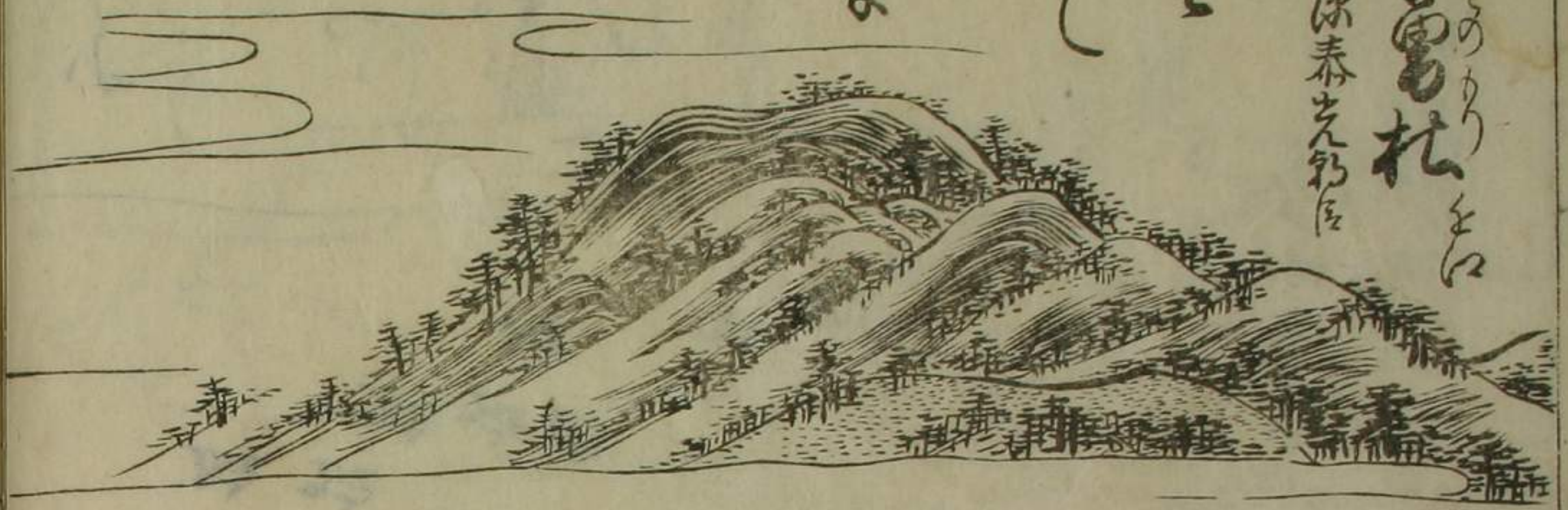
小
鳥
鳴
海
浪
石
燈
籠

鳴
海
浪
尾
張
正三位季能



老翁松
源春光初臣

かま
て
せよ



細力

川
多
き

海
果
な

老
翁
乃

松
人

か
ま
て
せよ



輦寺看花絶

寺近皇居多貴

遊看花還愛一

庭幽禪心味必

負春色院々珠

簾捲上鈎

俗意け寺ハ皇居よ
近とあるれハ貴人公
子の御方ありて
びあふ花を富貴羨
麗なる繁華の化
て面白さゆへなるを
いふもたはひる寺の
庭よりとてかへつて
面白さを存候し候



切らぬおとと當
位の花よハ春情
とていふほど春色
とてふんと賞翫と
ろくや寺院よりと
珠簾とまことそ
花よりゆへに
詩あり



